

新たに県指定文化財に指定されました

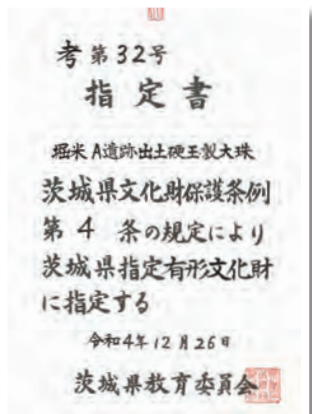
堀米A遺跡出土「硬玉製大珠」

照沼小学校の校舎改築に伴い、発掘調査が行われた「堀米A遺跡」。そこで発見された「硬玉製大珠」が、新たに茨城県の県指定文化財に指定されましたので、ご紹介いたします。

【問い合わせ】生涯学習課博物館・文化財担当（歴史と未来の交流館内）
☎287局0851



▲堀米A遺跡で発見された5点の硬玉製大珠



▲茨城県から交付された指定書



▲歴史と未来の交流館（展示室2）で展示中 ▶



有力者が身に付けていたと
考えられる「硬玉製大珠」

硬玉製大珠とはどのようなものか、皆さんはご存じですか。

「硬玉」とは、ヒスイ（翡翠）のこと。そして「大珠」は、装身具（アクセサリー）として「ムラの長」のような人物だけが持つことができ「威信財」と考えられています。

縄文時代中期の集落跡「堀米A遺跡」

硬玉製大珠が発見された堀米A遺跡は、今から約5000年前の縄文時代中期にあった、大きな「ムラ」の跡です。推定面積は約2万平方メートルで、ムラの中心には広場と墓域があり、それらを囲むように貯蔵穴や住居がありました。

硬玉製大珠は5点発見され、うち4点が、遺跡中央部の墓とみられる土壇（穴）から出土しました。このように一つの遺跡から複数の大珠が発見されることはあまり例がなく、とても貴重なことといえます。

神秘的宝石「ヒスイ」

今回、県指定文化財に指定された硬玉製大珠は、新潟県糸魚川産

のヒスイで作られたものとみられます。今から約5000年もの昔に、はるか遠く離れた地からやってきたヒスイの大珠――。

東海村と糸魚川地域の間で、一体どのような交流があったのでしょうか。さまざまな想像が膨らみます。



「大珠」は学術的価値の高い文化財

大珠は、縄文時代中期の精神文化や交易ルートを研究する上で、とても重要な文化財です。

今回の硬玉製大珠は、東海村はもちろん、茨城県全体の歴史を考える上でも学術的な価値が高く重要であることから、県指定文化財に指定されました。

ぜひご覧ください！

歴史と未来の交流館で展示中

今回ご紹介した硬玉製大珠を、歴史と未来の交流館（展示室2）で展示していますので、皆さんぜひご覧ください。

この機会に郷土の歴史に触れ、古代のロマンに思いをはせてみませんか。